

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
2年Aクラス	医療保育論	林 典子	
サブタイトル	医療保育のあり方を知る	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	前期	出席要件	4 / 5以上
到 達 目 標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療保育について、その制度や特徴を理解できる。</li> <li>・自分が経験したことがない状況や心情などを、相手の立場にたって推し量ることができる。</li> <li>・医療保育における保育過程を理解でき、具体的な支援具体的な支援を計画することができる。</li> </ul>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>1. ディプロマポリシーとの関連：専門学校のディプロマポリシー「保育に関する基礎的な知識や保育技術を修得し、保育の場で応用して発揮することができる」に関連する。〈学びで得られる成果〉専門分野に関する知識・技術を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決することができる。</p> <p>2. カリキュラムマップの位置づけ：保育者としての得意分野を広げる専門領域、「医療保育領域」の学びに関連する。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>(1) 医療保育のねらいや意義など基本的な概念から学び、必要な知識や技術等を習得する。</p> <p>(2) 講義形式をとともに、保育実践についてはペアワークやグループワークにて支援のあり方を考える。</p> <p>本授業は対面授業を中心とするが、必要に応じて遠隔授業を行うことがある。</p> <p>フィードバックは授業内で適宜行う。</p> <p>授業内容については、履修者の希望や状況によって変更することがある。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト： 使用せず、適宜資料を配布する。</p> <p>参考書： 改訂 医療保育セミナー 日本医療保育学会 建帛社 2021年</p>			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
<p>(1) 医療保育の対象となる子どもの生活や遊びの支援を理解している。</p> <p>(2) 医療保育の対象となる子どもの家族等への支援を理解している。</p> <p>(3) 子どもへのトータルケアという視点を理解している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート 40%</li> <li>・授業への取り組み（問いかけへの応答、学習意欲等） 60%</li> </ul>	
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>医療保育は独特の考え方もあり、保育所保育とは異なる側面があります。</p> <p>子どもやその家族のことなどいろいろ想像しつつながら授業に出席してください。</p> <p>小児科を標榜する病院、病児・病後児保育施設等における勤務経験があります。</p>			

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	ガイダンス、オリエンテーション ・授業のすすめ方の説明 ・病棟保育とは何か	・授業のすすめ方を理解できる。 ・医療保育についてイメージを持てる。
2回	医療保育とは ・医療保育の4つの場について、その概要を学ぶ。	・医療保育の4つの場の違いを理解できる。
3回	病棟保育 ・病棟保育のあり方について具体的な事柄を知る。	・病棟で過ごす子どもの姿を想像できる。 ・病棟保育の取り組みについて理解できる。
4回	病児・病後児保育 ・病児・病後児保育施設のあり方や外来保育について具体的な事柄を知る。	・病児・病後児保育施設で過ごす子どもの姿を想像できる。 ・病児保育や外来保育の取り組みについて理解できる。
5回	障害児保育（医療的ケア児への保育） ・障害児保育のうち、特に医療的ケア児への保育について具体的な事柄を知る。	・医療的ケア児への支援がすすんだ経緯や、保育のあり方を理解できる。
6回	入院している子どもの過ごし方① ・点滴したり臥床した状態にある子どもの遊びについて知る。	・さまざまな行動制限がある子どもの保育について考えることができる。
7回	入院している子どもの過ごし方② ・体調がすぐれず点滴をしている子どもの姿を想像し、その子どもへの保育内容を考える。	・体調がすぐれない子どもを対象とした遊び方の工夫を考えることができる。
8回	隔離されている子どもとその家族に対する支援① ・隔離（逆隔離含む）されている子ども、保護者の様子がどのようなものかを知る。	・隔離されている子ども、保護者の様子を理解できる。
9回	隔離されている子どもとその家族に対する支援② ・隔離されている子どもと家族への支援を考える。	・隔離されている子どもへの支援のあり方を考えることができる。
10回	病気の理解① ・からだのしくみをよく考え、自分たちなりに理解しながら、子どもがかかることが多い病気について調べてみる。	・病気にかかるとどのような状況、心情になるかを想像することができる。
11回	病気の理解② ・からだのしくみをよく考え、自分たちなりに理解しながら、子どもがかかることが多い病気について調べてみる。 ・調べたことについて、第三者が理解しやすいように伝え方を考える。	・子どもがかかることが多い病気について、わかりやすく伝えることができる。
12回	病院で過ごす子どものストレスポイント ・病気になった子どもがどのように過ごし、どのようなことにストレスを感じるのか調べ学習する。	・大人とは違う、小児ならではのストレスポイントを理解できる。
13回	子どもと家族への支援 ・架空事例を用いて、子どもへの支援のあり方を考える。	・事例から、その子どもにとっての課題を抽出し、必要な支援を考えることができる。
14回	まとめ ・今までの学習内容を振り返る。	・今までの学習内容をあらためて確認することができる。
試験	定期試験は実施しない。	